

平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立竜王小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／理科に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語、算数共に「知識」をみるA問題の方が、「活用」をみるB問題よりも正答率が高いです。しかし、国語、算数共に、学力の上昇傾向にあります。
- ・国語の平均正答率は、A問題では全国とほぼ同程度であり、一定の定着がみられ漢字や言葉など継続した取組の成果がみられました。一方でB問題から「書くこと」については、文章の要旨を捉えたり、内容にあった見出しをつけたりすることが、課題として挙げられます。
- ・算数の平均正答率は、A、B問題ともに、全国とほぼ同程度であり、特に計算などの基礎的内容の理解が高く成果が見られました。B問題の「図形」については、設問を理解できない児童がいたことが課題です。
- ・理科の平均正答率は、全国とほぼ同程度であり、一定の定着が見られました。「観察・実験の技能」や「自然事象についての知識・理解」は高い値を示している一方、「科学的な思考・表現」は大きな伸びがみられませんでした。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

・よい傾向がみとめられる項目

それぞれの教科の学習が大切であると感じている児童の割合が高く、学習に関心をもって、今後の社会で活用する重要性を認識していることが分かりました。

学級会や総合的な学習の時間を通して、自分の意見を発表するなどの学習をしっかりと取り組んでいる児童が多くみられ、仲間との話し合い活動を大事にしている様子が分かりました。

・課題となる項目

感想文や説明文を原稿用紙に書くことを難しいと感じている児童がいました。

テレビ、ゲーム、携帯電話などを長い時間している児童の割合が高いです。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・「書くこと」を日常的・継続的に推し進めていき、自分の意見や理由などが明確になるように、指導を重ねて学習を深めていきます。また、低学年からの作文活動や調べ学習等で自分の考えを書くことを行い、「書くこと」に慣れ親しむ環境を作り出していきます。
- ・問題場面を言葉や数、図などを使って式に表し、筋道を立てて考えたり話し合ったり出来るよう、問題解決型の学習を今後もより推し進めていきます。問題を解いていくための根拠や理由を明確にし、結論まで丁寧に説明できるような力を育成していきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・各家庭に配布した「家庭学習の手引き」を参考にして、家庭学習への取組をより一層深められるようご協力下さい。
- ・生活リズムを整え、テレビやゲーム、携帯電話等の使用に際しては、保護者とよく話し合いをしてルールを徹底させましょう。
- ・親子で読書に取り組むなど、児童の読書活動に繋がるよう心がけましょう。